

事例研究自己啓発

事例研究

登場人物：山田 肇 マンモス銀座店 店長 年齢 29 歳
 川野 次郎 銀座銀行丸の内店 営業係
 谷村 和子 スーパーダイケー 婦人服売場主任
 岡田 雄三 大手建設 不動産販売部

設定：山田肇は5年前に新卒として、パチンコ店を営むマンモスチェーンに入社した。入社後、同期のなかでも抜きんできた能力を発揮し、大きな業績を挙げた結果、同社でも最速で店長の地位を得た。

5年ぶりに大学の同級生と会う機会があり、会場にきたら3名が来ていたので、名刺交換をした。

岡田：やあ、山田はもう店長になったのか。この中では一番の出世頭だなー。
 部下は何人いるだい。

山田：そんなにおだてるなよ。大したことじゃないよ。部下は正社員12人とアルバイト18人合計で30人ぐらいかな。

谷村：すごいじゃないの。私なんか部下と言うより、後輩が3名いるだけよ。どうしたらそんな風に出世できるの。

山田：大したことはしていないさ。強いて言えば、業界雑誌をよく読んだ事かな。

川野：自己啓発か、山田は学生時代から勉強熱心だったからな。俺なんか日経新聞を読むくらいだよ。山田は新聞は何を読んでいるの。

山田：日刊スポーツを読んでいるよ。パチンコ関係の情報はよく載っているからね。

岡田：それで社会の情報はとれるの。俺の会社はもろ景気の煽りをくっちまって大変なんだ。ナスダックの株価が落ちて、日本経済にも大きな影響がでているからね。おかげで、企業の設備投資が減ってしまって、そのうちリストラがあるかもしれない。

山田：ナス…？・・・なすがどう景気と関係あるの。

一同：・・・・・・・・・・・・・・・・

岡田：俺の処も大変だけど、谷村の処はもっと大変だよな。グループの店がほとんど閉鎖になるんだろ。新聞にでていたよ。谷村はリストラされないの。

谷村：うちはグループとは言え、店毎に法人が分かれているから大丈夫。私の店はニッチ戦略でうまくいっているから。

山田：ニッチだって・・・グッチの間違いだろ。

川野：ニッチだってば、マーケティングの考え方だよ。しらないのか。

事例研究自己啓発

おまえの処はどんなマーケット戦略をとっているのか。

山田：アウト稼働を見ながら釘の開け閉めをしているよ。

川野：そうじゃなくて、マーケットとしてどのくらいの地域を考え、どのくらいの階層を中心のターゲットにしているの。どのように告知をしているの。

山田：入れ替えの時にチラシを5万部投入しているよ。

岡田：いいなあ、楽で。建築関係は業界そのものが不況な上、競合がはげしいから、ランチェスターの法則を隅から隅まで読んだよ。

山田：え、なに、ラン・ラン

川野：ランチェスターの法則だよ。マーケティングの古典だよ。古いと言われるけど結構役に立つよ。我が社も大手銀行に対処するため、いくつか、この法則を実施しているよ。出世頭の割には、こっちの方は勉強していないんだな。

谷村：山田さん、休みはいつも何しているの。

山田：近所の店で、パチンコをやっているよ。

岡田：さすがだね。お客さんの心理は体験しないと解らないものね。それ以外は何かやっているんだろ。

山田：毎日がハードで、あとは寝ることぐらい。

川野：でも、山田はいずれ開発をやりたいと言っていたね。

山田：うん、2～3年店長をやった後、会社と相談しようと思っている。

岡田：宅建の勉強なんかしないでいいの。

山田：そのうち、暇を見つけてやらないと思っではいるよ。

川野：俺も、毎日仕事柄、帰宅は10時を回るけど、自分のキャリアのため、夜2時間は宅建の勉強はしているよ。去年は落ちちゃったけれど。

岡田：俺の処は、仕事そのものだから、入社して2年目には取ったよ。通勤電車の中や外回りの移動中に時間をみつけて・・・・・・そうでもしないと、時間はお客さんに合わせなければならない仕事だから、時間は作れない。土曜日曜も関係ない仕事だからね。

谷村：うちのグループ店で閉店した店の人たちも大変よ。簿記1級とか資格を持っている人たちは、比較的早く再就職できているけど、毎日、飲み歩いて何もなかった人たちは、なかなか仕事が見つからなくて苦労しているそうよ。

私も、販売士の資格を今、挑戦中、仕事をやりながら勉強をするのは本当に大変。

でも、転職するかは別として、自分を守るためには勉強しておかないとね。

川野：日経流通なんかは購読しているの。

谷村：もちろんよ。仕事をする上で広範な知識が必要だから・・・・・・でも学生時代と違って時間がないのが悩みの種ね。

岡田：ほんと、24時間の内半分以上は仕事に取られちゃうからね。どれだけ学生時代に時間を無駄にしていたか、今になって気がついたよ。

事例研究自己啓発

川野：そうだよね。いろいろ勉強しなくてはならないことはたくさんあるけど、時間を作るって事は、ほかにやりたいことを切り捨てるみたいなものだから、しっかりと優先順位をつけて整理しないと、社会から取り残されちゃう。今リストラに会っている人たちは、そういう人が多いとうちの支店長がよく言っているよ。

岡田：上司から入社時に「建築業法の事も知らないのか。」とよく言われた。俺たち経済学部だろ。知っているわけではないよな。業界に入ったのだから、会社は当然知っているものだという前提に立っているから、面食らってしまった。必死で勉強したよ。

谷村：そこが学校と違うところね。自分で必要な事を見つけて、自分でその方法を考えなければならぬから、大変。お金も自分で負担しなくちゃならないし。でも、そういうのをやっていかないと、社会から取り残されるだけでなく、会社でも生きて行かれないから。

山田：へー・・・みんな大変なんだ。

川野：人ごとじゃないぞ山田。おまえは出世頭だけど、一番世間に疎いようだよ。いつかつけがくるから気をつけた方がいいよ。

山田：・・・・・・そうかなー。時間が無くてなー。

課題

1. 山田君は他の同窓生と何が違いますか。具体的に挙げて下さい。(現象)
2. どうして上記1の状態となってしまうましたか、理由を挙げて下さい。(原因)

本事例の使用方法および模範解答はこちら [→お問い合わせ](#)